
I n p o r t a n t , s p e c i a l d a y

水神宮

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I m p o r t a n t , s p e c i a l d a y

【Nコード】

N 3 4 7 2 A

【作者名】

水神宮

【あらすじ】

愛する人と結婚式を挙げる。それは全女性の夢。でも真実の場合、少し違う形で愛する人と結ばれる……

子供の頃から憧れだった

真っ白いウェディング・ドレスを身に纏い

私はバージン・ロードを歩み出す

愛するあの人の元へ行く為に……

厳かに式は進み、誓いの言葉を交わす時がやってきた。

「汝、久米真実は、病める時も、健やかなる時も、富める時も、貧しき時も、加賀美俊一の妻として、これを愛し、慈しむ事を誓いますか？」

「はい、誓いま………」

「ちょっと待てよ、真実!!」

悲痛の叫び声が列席から上がった。声の主は、俊一の親友、久史だった。

「久史………」

「おまえ、本当にこれでイイのかよ!!」

「いいの、言ったでしょう？ 私は彼と結婚するの。」

「だって、おまえ、俊一は三年前に……!!」

「死んだね。」

そう、新郎のいる場所には誰もいない。

三年前、俊一は事故により天に召された。

……私との結婚指輪を買いに行った帰りに……。

「私も、もう一度聞くわね？……本当に……俊一と《事実婚》するの？……世間にも、誰にも認めて貰えない……“不毛な結婚”よ？」

牧師役をしていた親友の聖羅が心苦しそうに問い掛ける。

こんな無茶苦茶な《事実婚》に真っ先に反対し、久史と共に必死に私を説得していた。

こんな無茶苦茶な式の為に式場を借りれたのは、私の熱意に負けた聖羅が、自分の父親が経営する式場を私の為にリザーブしてくれたから。

「私はもう、意思を変えるつもりはない。私は俊一と婚約していたの。今日、彼の“命日”を“結婚記念日”に変える。ただそれだけが……私の願い。」

久史と聖羅は……もう説得は無駄だと悟ったのか、揃って溜め息を吐き……久史は椅子に座り直し、聖羅は涙ながらに再度誓いの言葉を問う。

「汝、久米真実は……生涯、加賀美俊一を愛し、慈しむ事を……誓いますか？」

「はい、誓います。」

「では……指輪交換と、誓いの口付けを。」

私は持っていた小さなバッグから、俊一の遺品となった結婚指輪を取り出し、この三年間、ずっと付けていた婚約指輪を自ら外し、

《結婚指輪》を…………左手薬指に嵌めた。

そして、ヴェールをあげ、生きていたら俊一の唇があるであろう場所に背伸びして…………温もりのない口付けを交わした。

式場の教会を出る為、門を潜ったのち、二人は『もうどうして泣いているのか分からない』と言いつつ、惜しめない拍手とライスシヤワーを私と…………隣にいる筈の俊一にかけてくれた。

ねえ、俊一。

貴方は喜んでいるかな、それとも怒っているかな？
でも、私は貴方以外は愛せない。
だから…………私の我儘、許して？

お願いです、私を貴方の花嫁にして下さい。

あの世で再会したら…………きっと本当の
「結婚式」
をしようね？

了了

（後書き）

私のHPで評判の良かった作品です。こちらでは処女作なので宜しければ感想など頂ければ幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3472a/>

I n p o r t a n t , s p e c i a l d a y

2010年10月26日06時21分発行